

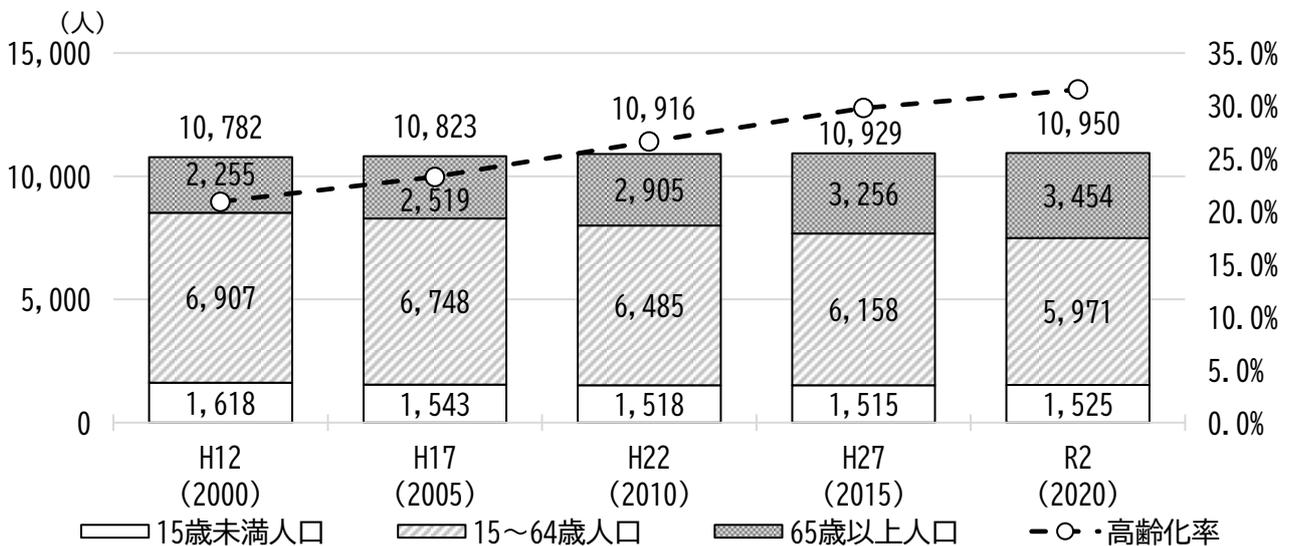
第2章 里庄町の現状と課題

1. 人口と世帯の状況

里庄町における年齢3区分別人口の推移を見ると、平成12（2000）年以降65歳以上の「高齢者人口」は年々増加を続けており、少子高齢化が進んでいます。15歳未満の「年少人口」、15～64歳までの「生産年齢人口」はともに減少してきましたが、平成27（2015）年から令和2（2020）年にかけては「年少人口」はわずかに増加しています。

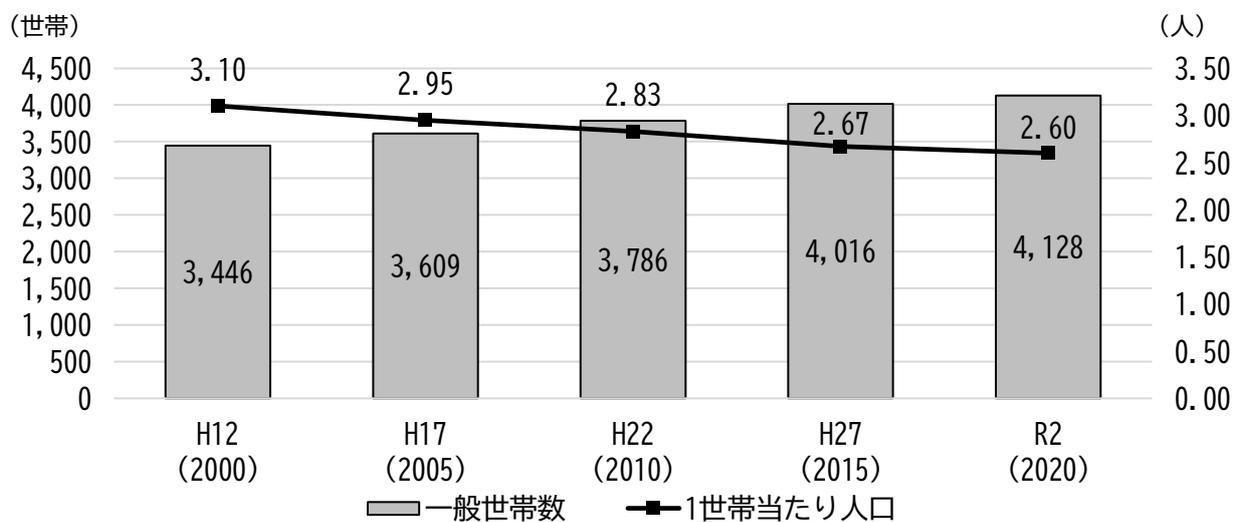
また世帯数の推移を見ると、一般世帯数は年々増加を続けているのに対し、1世帯当たりの人口は減少しており、世帯人員の減少が進んでいます。

■年齢3区分別の人口推計



資料：国勢調査

■世帯数の推移



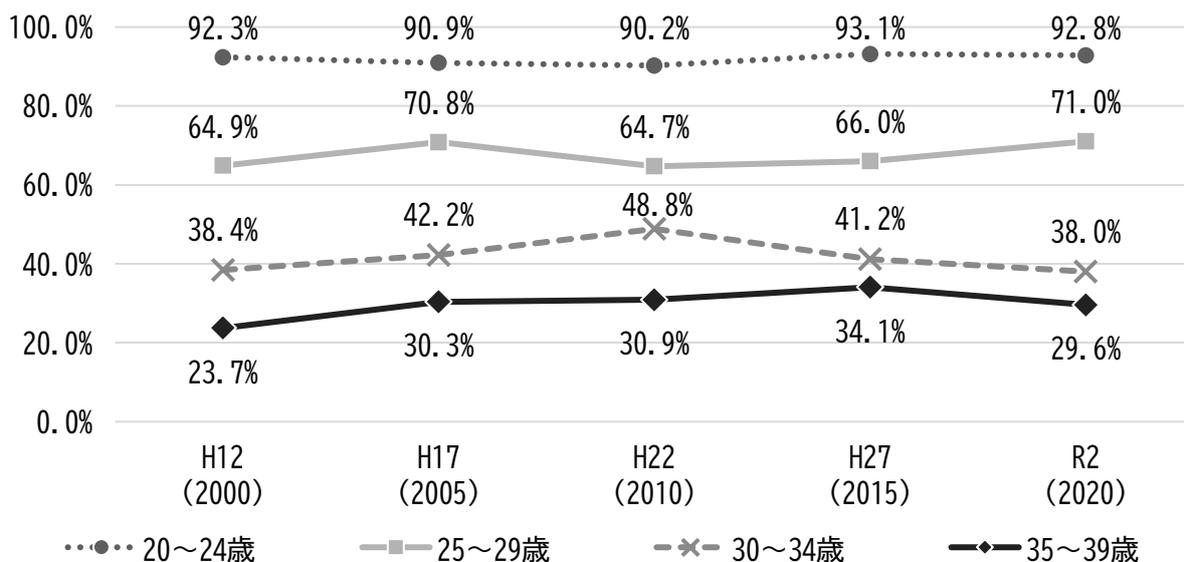
資料：国勢調査

2. 結婚・出産の状況

(1) 未婚率の推移

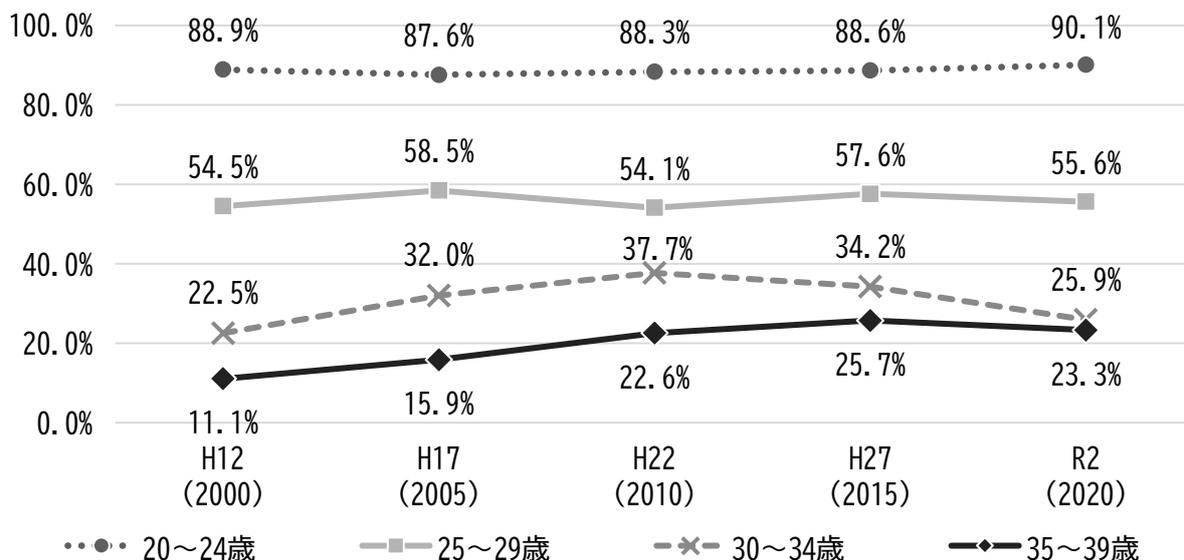
里庄町における20代、30代の未婚率の推移を見ると、男女ともに35～39歳の未婚率が増加傾向にあります。特に30代後半の女性の未婚率について、平成12(2000)年と令和2(2020)年を比べると10ポイント以上上昇しています。

■未婚率の推移(男性)



資料：国勢調査

■未婚率の推移(女性)

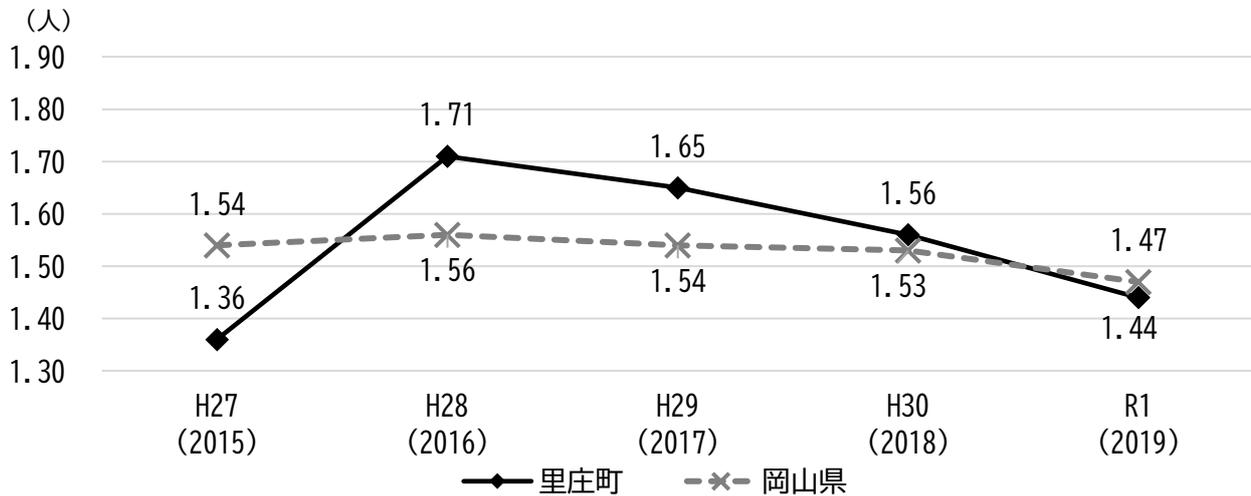


資料：国勢調査

(2) 合計特殊出生率の推移

里庄町の女性が一生の間に生むと推定される子どもの数を表す「合計特殊出生率」は、平成 28 (2016) 年以降年々減少しています。平成 28 (2016) 年から平成 30 (2018) 年にかけては岡山県全体の合計特殊出生率を上回っていましたが、令和元 (2019) 年には県を下回っています。

■合計特殊出生率



資料:岡山県衛生統計年報

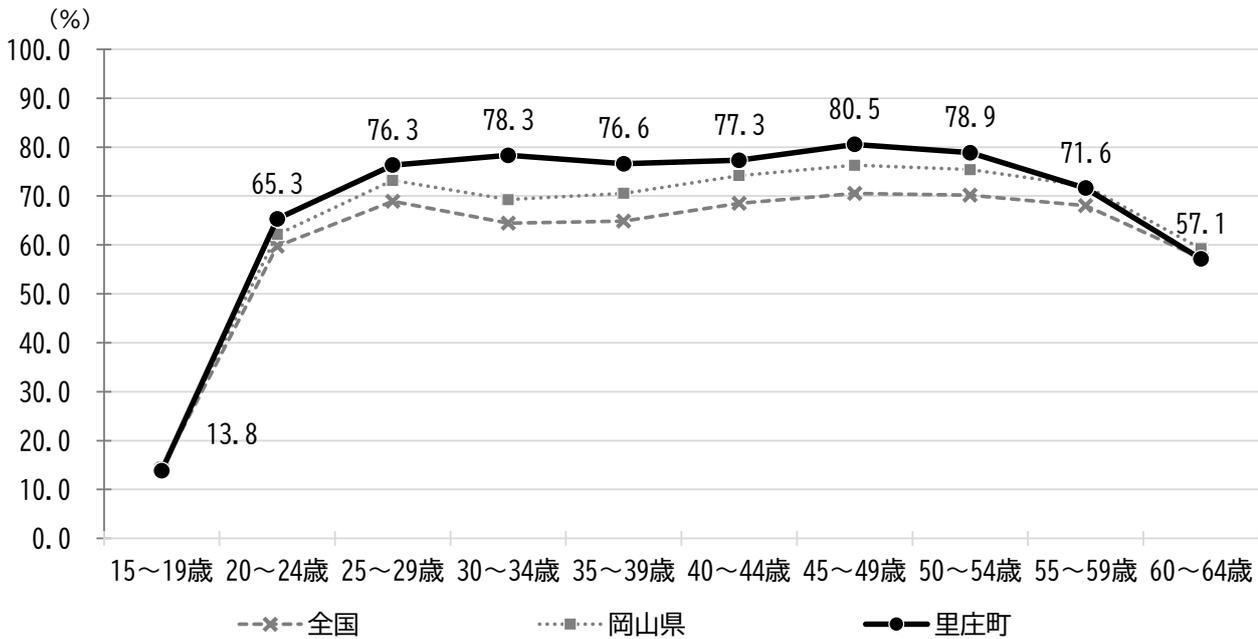


3. 就労の状況

里庄町における年齢別女性の就業率を岡山県、全国と比較すると、20～59歳までの就業率が岡山県、全国を上回っており、出産・育児期に当たる20～30歳代での就業率の低下があまりみられません。

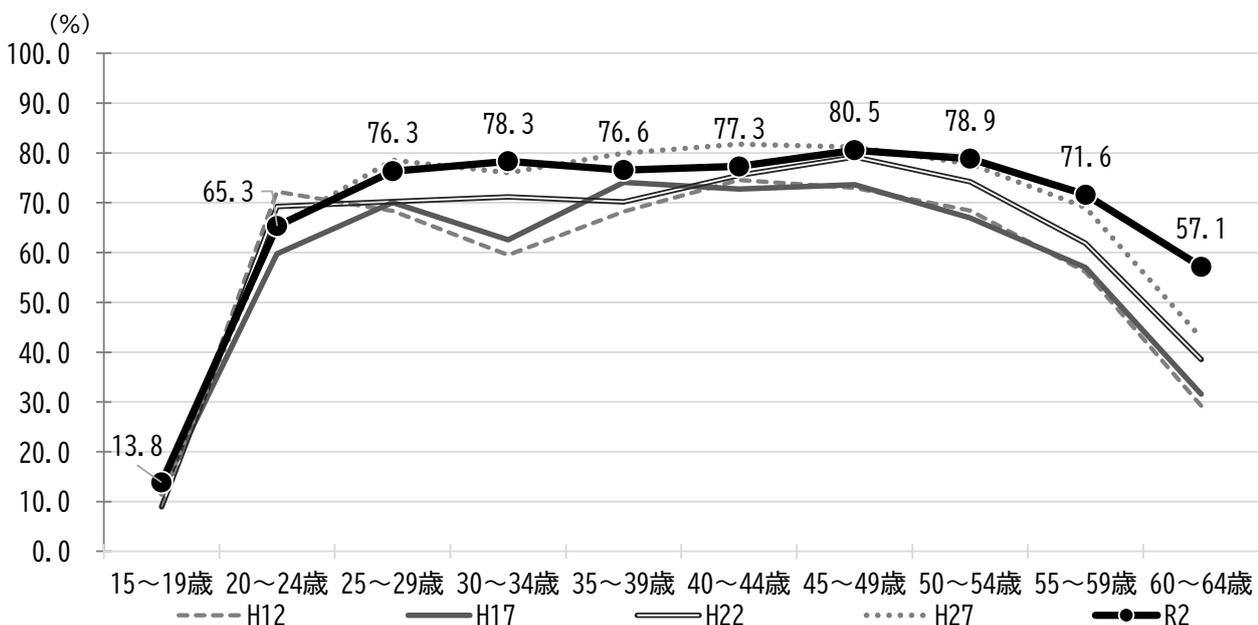
これまでの里庄町の推移をみると、平成17（2005）年までは30～34歳の就業率が低くなる傾向にありましたが、平成27（2015）年以降はあまりみられなくなっています。また、令和2（2020）年の60～64歳の就業率は平成12（2000）年以降最も高くなっています。

■里庄町の年齢別女性の就業率と全国、県数値との比較



資料：令和2(2020)年国勢調査

■里庄町の年齢別女性の就業率の推移



資料：国勢調査

4. 目標値と現状値

(1) 基本目標1 男女共同参画を目指す意識づくり

男女共同参画の意識啓発については、男女共同参画週間や男女共同参画推進月間などの機会に合わせて広報活動を行うとともに、教育現場等においても男女共同参画の視点に立った指導が行われるよう取り組みを進めてきました。研修等についても取り組んできましたが、事業によっては新型コロナ禍の影響を受けているものもあり、今後の事業継続に向けて検討する必要があります。

■前計画の目標値と現在値

事柄	前回策定時の 現状値	前回策定時の 目標値	現状値
広報紙等の各種媒体を利用した男女共同参画の周知	4回 (平成28年度)	10回/年度	3回 (令和3年度)
男女共同参画に関する職員研修の開催	1回 (平成28年度)	3回	1回 (令和3年度)
教育関係者及びPTAを対象とした男女共同参画研修会の開催	3回 (平成28年度)	2回	0回 (令和3年度)
町内の中学校が実施する社会体験学習の受け入れ	3回 (平成28年度)	4回	1回 (令和3年度)
社会通念・慣習・しきたりにおいて男女の地位が平等だと思う人の割合を増やす	15.8% (平成29年度)	20.0%	16.4% (令和4年度)
「夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい」という考え方に対して反対、どちらかといえば反対と思う人の割合を増やす ^{※1}	41.0% (平成29年度)	50.0%	—
自分自身がセクハラ被害にあった人の割合を減らす ^{※2}	男性 2.9% 女性 14.1% (平成29年度)	男性 1.0% 女性 5.0%	—
DVの被害を受けた人のうち、公的機関等に相談した人の割合を増やす	2.2% (平成29年度)	10.0%	5.0% (令和4年度)

※1 令和4年度町民意識調査より

「家事や育児は女性の仕事である」という考え方に対して反対、どちらかといえば反対と思う人の割合…63.1%

「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」という考え方に対して反対、どちらかといえば反対と思う人の割合…23.5%

※2 令和4年度町民意識調査より

ハラスメント(セクハラを含む)の被害にあった人の割合…男性 19.7%、女性 29.3%

(2) 基本目標2 男女がともに活躍する環境づくり

女性管理職の登用や審議会等の委員における女性割合の向上、出産・子育てのしやすい職場環境の形成など、男女がともに活躍する環境づくりに取り組んできましたが、人材の不足等により女性活躍及び男性の家庭参画については課題が残る状況です。

町民意識調査では、職場及び家庭生活の中で男女が平等と思う人の割合は横ばいとなっており、役場内だけでなく民間事業所も巻き込んだ取り組みが求められます。

■前計画の目標値と現在値

事柄	前回策定時の 現状値	前回策定時の 目標値	現状値
女性活躍に取り組む町内企業の情報を広報紙等で周知した件数	-	1回/年	0回 (令和3年度)
職場の中で男女が平等と思う人の割合を増やす	24.6% (平成29年度)	35.0%	24.7% (令和4年度)
町の審議会や委員会の委員募集における公募の実施	2回 (平成28年度)	2回	2回 (令和3年度)
町の審議会や委員会の委員における女性の割合	33.0% (平成29年度)	40.0%	37.7% (令和4年度)
町の男性職員の育児休暇取得者数を増やす ^{※3}	0人 (平成29年度)	2人	1人 (令和3年度)
男性のための研修会(父と子を対象とするものも含む)の開催	6回 (平成28年度)	4~6回 /年度	0回 (令和3年度)
家庭生活の中で男女が平等と思う人の割合を増やす	30.0% (平成29年度)	35.0%	30.4% (令和4年度)

※3 本計画より、男性職員の育児休暇取得者数については、人数ではなく取得した割合を目標値とします。
(取得割合…取得者数/配偶者が出産した男性職員の人数)

(3) 基本目標3 安心して多様な暮らし方ができるまちづくり

子育て支援については、小児医療費制度の対象年齢の引き上げ等支援の充実に取り組んでいますが、近年は子ども会の減少などにより、地域ぐるみの子育て支援が難しくなっています。その他の地域活動やボランティア活動についても高齢化が進んでいることから、若い世代への参加を呼びかけながら地域における男女共同参画の実現に向けて取り組みを進める必要があります。

検診等については、新型コロナ禍の影響もあり受診体制を縮小しなければならない状況が続いています。今後は、感染対策を図りながら受診体制の充実にも努める必要があります。

■前計画の目標値と現在値

事柄	前回策定時の 現状値	前回策定時の 目標値	現状値
保育料2人目以降無料制度の維持	現状維持	現状維持	現状維持 (令和3年度)
子育てひろばげんキッズ利用者の増加	5,486人 (平成28年度)	現状維持	6,559人 (令和3年度)
乳がん検診受診率の増加	27.0% (平成28年度)	30.0%	18.72% (令和3年度)
子宮がん検診受診率の増加	24.2% (平成28年度)	30.0%	15.11% (令和3年度)
前立腺がん検診受診率の増加	12.6% (平成28年度)	15.0%	11.88% (令和3年度)